

---

# 自律的外国語学習支援へのアプローチ

一言語学習史インタビューから作成した「モチベーション変容グラフ」とその活用法

---

<日本英語教育学会第44回年次研究集会 0302>  
早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程 鈴木由衣

---

# 本発表の流れ

---

1. 研究概要
  2. 言語学習史インタビュー  
モチベーション変容グラフ  
時系列ラベルと構成概念  
エピソード
  3. 自律性支援のアプローチ
-

# 1. 研究概要 — 自律性 (Autonomy) —

---

- 学習者オートノミー (Learner Autonomy)

**「学習者オートノミーとは学習者が自分の希望やニーズに従って自分で自分の学習についての選択をし、学習の計画を立てて、それを実行し、その結果を評価する自由であり、責任であり、能力である」**

青木直子(2006)「教師オートノミー」『日本語教師の成長と自己研修－新たな教師研究ストラテジーの可能性を目指して－』凡人社、pp.138-157.

- 自律性支援 (Autonomy Support)

- 教師オートノミー (Teacher Autonomy)

---

# 1. 研究概要 —自律性と独立性—

---

- **自律性:「自由な意思と自己選択の感覚をもって、自由に行動すること」**
- **独立性:「独力で何かをすることであり、他者からの物質的、情緒的支援に頼らないこと」**

エドワード・L・デシ & リチャード・フラスト (Deci, E.L., & Flaste, R.) 桜井茂男訳  
(1999)『人を伸ばすカー内発と自律のすすめ—』新曜社 [Deci, E.L., & Flaste, R.  
(1995). *Why we do what we do—The dynamics of personal autonomy*. New York:  
Penguin Books.]

---

# 1. 研究概要 — 動機づけ(Motivation) —

---

内発的動機づけ (Intrinsic Motivation)

外発的動機づけ (Extrinsic Motivation)

Deci, E.L. & Ryan, R.M. (2002). *Handbook of Self-Determination Research*. Rochester: The University of Rochester Press.

★内発的動機づけのみなもと:

「自律性への欲求」「有能さへの欲求」「関係性への欲求」

エドワード・L・デシ & リチャード・フラスト (Deci, E.L., & Flaste, R.) 桜井茂男訳 (1999)『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—』新曜社 [Deci, E.L., & Flaste, R.(1995). *Why we do what we do—The dynamics of personal autonomy*. New York: Penguin Books.]

---



# 1. 研究概要 – 自律性と動機づけの関係 –

---

- 言語学習を成功させるための重要な要素
- 学習の過程で変容する

重要なのは、「他者をどのように動機づけるか」ではなく、「どのようにすれば他者が自らを動機づける条件を生み出せるか」  
(デシ他, 2012)

*Most researchers agree that autonomy cannot be ‘taught’ or ‘learned’. For this reason, the term ‘fostering autonomy’ is often used to refer to educational initiatives that are designed to stimulate or support the ‘development’ of autonomy among learners.* (Benson, 2011)

---

# 1. 研究概要

---

## 「学習者の情態変容から考える自律性支援 ーデンマークにおける日本語学習の事例ー」

- 日本語教育における自律性支援
  - 学習者の学習プロセスに着目
  - 自律性と動機づけの変容の実態
  - 3つの研究課題
  - 2つの調査
-

# 1. 研究概要 — 研究課題 —

---

- 海外の日本語学習者の自律的学習に関するビリーフを把握すること
  - モチベーションの変容を可視化し自律性との関連を示すこと
  - 自律性支援の具体例を検討・提案すること
-

# 1. 研究概要 – 2つの調査 –

---

## 調査1

- ・質問紙調査
- ・フォローアップ・インタビュー

動機づけに関する項目

「自律的学習に関わる確信の自律度」  
主に自律性の観点で分析

## 調査2

- ・言語学習史インタビュー

モチベーションの変容に着目

メタ認知ストラテジー・自律性・  
動機づけの観点で分析

## 2. 言語学習史インタビュー

---

### 調査1

- ・質問紙調査
- ・フォローアップ・インタビュー

「自律的学習に関わる確信の自律度」  
主に自律性の観点で分析

### 調査2

- ・言語学習史インタビュー

モチベーションの変容に着目  
メタ認知ストラテジー・自律性・  
動機づけの観点で分析

## 2. 言語学習史インタビュー

---

- 言語学習ヒストリー (LLH: Language Learning History)  
学習者が言語学習を開始してから現在に至るまでの長期的な学習過程で、何を経験し、何を感じ、どのように意識や考え方が変容したかを調査

Murphey, T., Chen, J., & Chen, L.C. (2004). Learners' constructions of identities and imagined communities. *Learner's Stories*. Cambridge University Press. 83-100.

→ **個々の学習者に注目**

- ヨーロッパ言語ポートフォリオ (ELP):

「Language Passport」 **「Language Biography」** 「Dossier」

---

## 2. 言語学習史インタビュー —データ & 結果—

---

- **モチベーション変容のグラフ**
  - 時系列ラベルと構成概念
  - エピソード
-

## 2. 言語学習史インタビュー —グラフ作成—

---

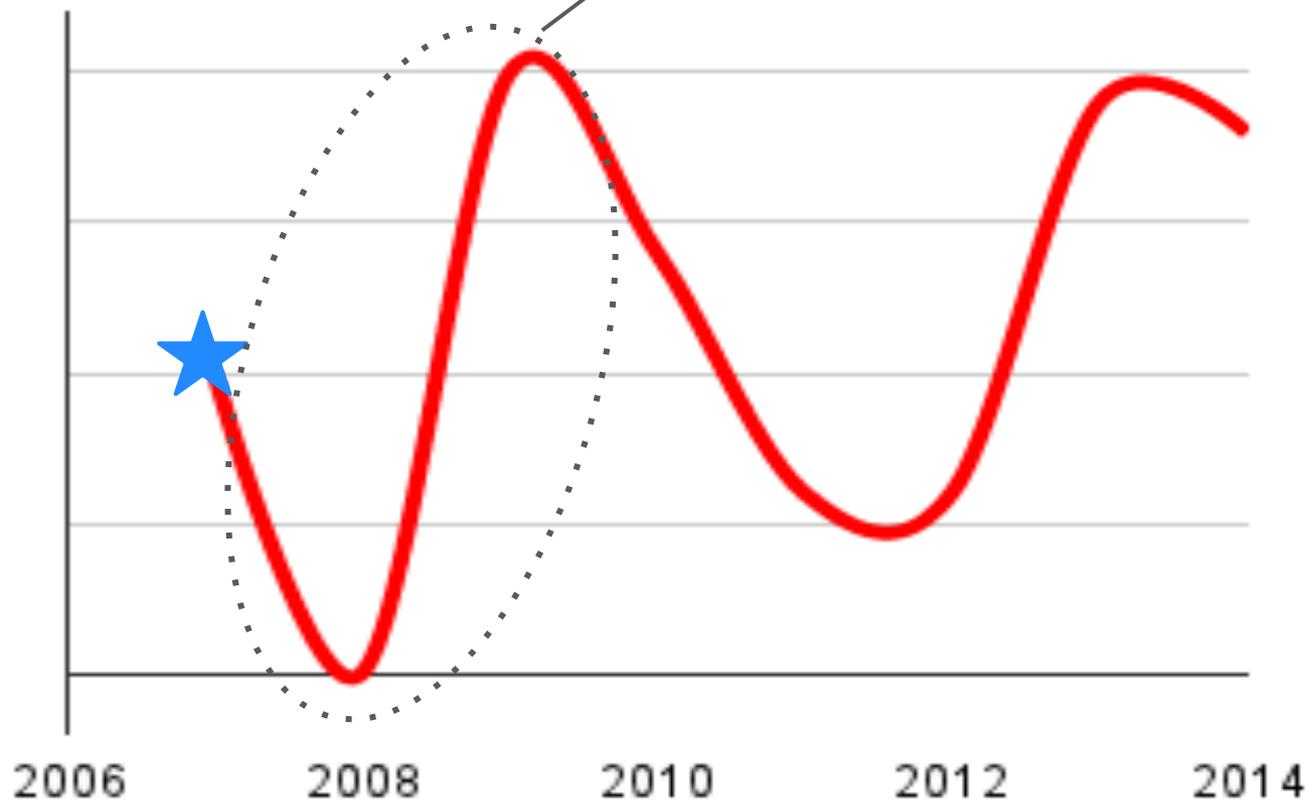
### モチベーション変容の視覚化の手順:

1. インタビュー中にグラフのラフを描く
  2. インタビュー中に前後の出来事を比較して  
グラフを協力者と共に作成
  3. 後日、調査者がエクセルでグラフを作成
  4. 作成したグラフを協力者に確認してもらう
-

Andreas

分析対象時期

2007年  
学習開始



---

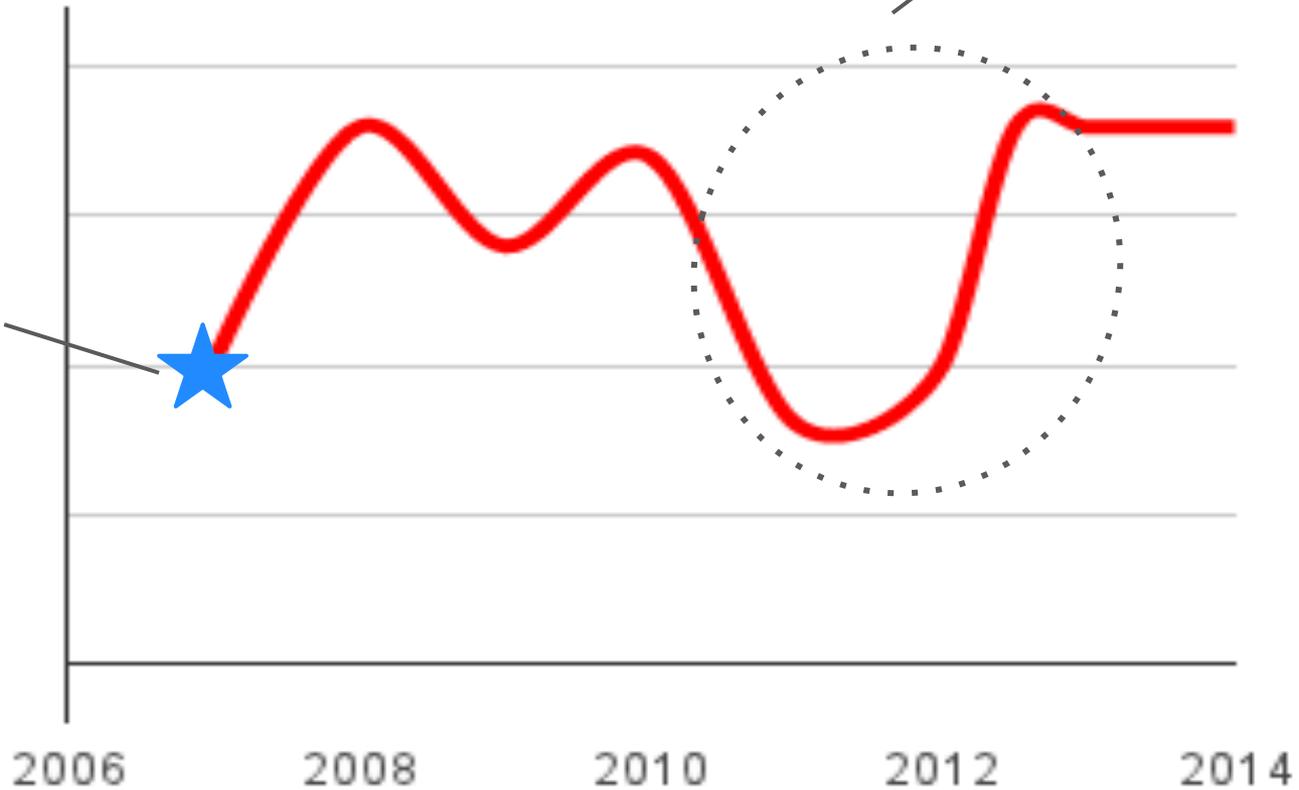
モチベーション変容のグラフ

---

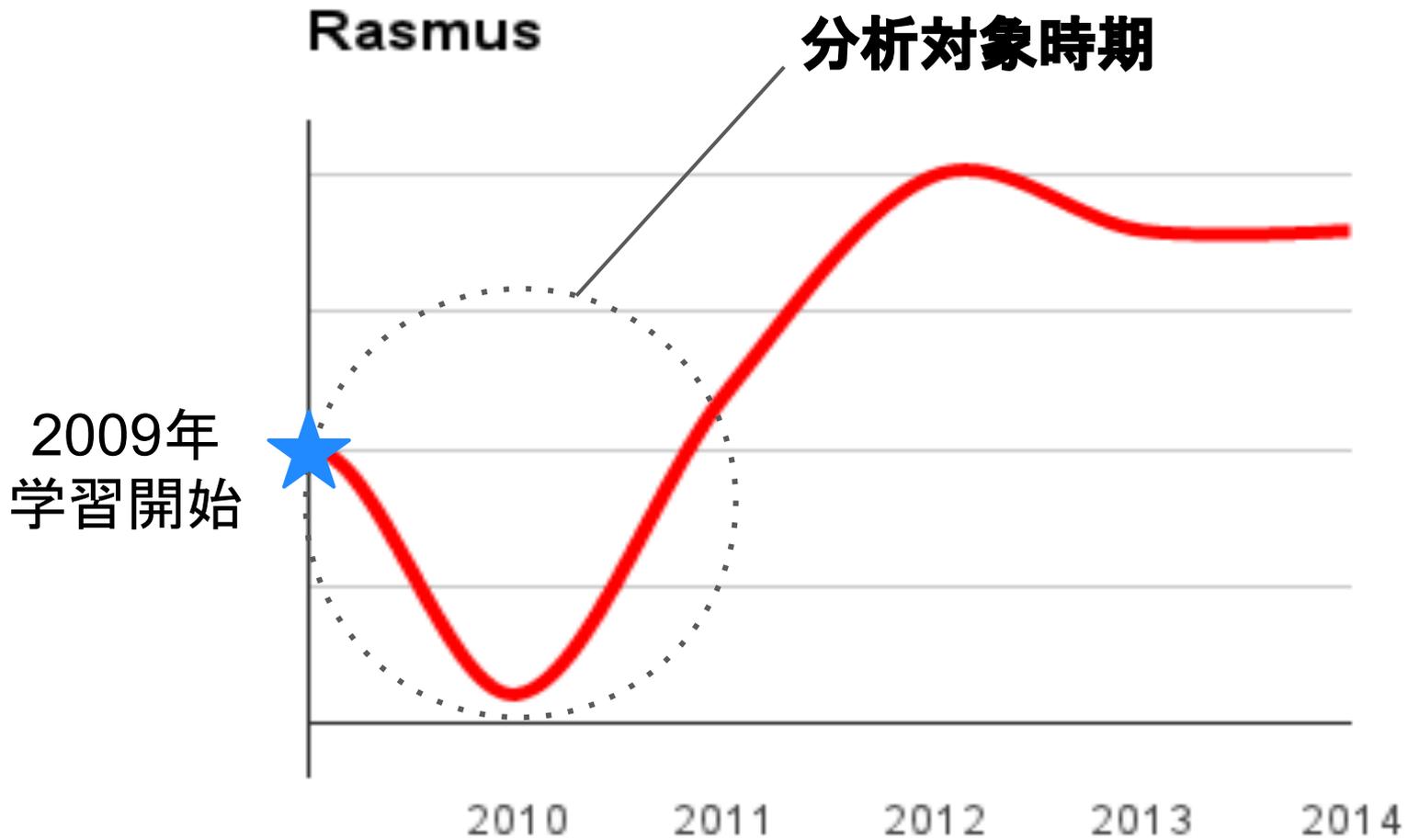
Mads

分析対象時期

2007年  
学習開始



モチベーション変容のグラフ



---

モチベーション変容のグラフ

---

## 2. 言語学習史インタビュー —データ & 結果—

---

- モチベーション変容のグラフ
  - **時系列ラベルと構成概念**
  - エピソード
-

## 2. 言語学習史インタビュー —分析方法—

---

### SCAT (Steps for Coding and Theorization)

- 1) データの中の着目すべき語句
- 2) それを言い換えるためのデータ外の語句
- 3) それを説明するための語句
- 4) そこから浮き上がるテーマ・**構成概念**

+

### ストーリーライン&理論の記述

大谷尚(2008)「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCATの提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き —」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第54巻 第2号、pp.27-44.

---

# Andreas

時系列ラベル	構成概念
大学入学	人生の中の日本語学習の位置づけ
挫折	生きる意味
再出発	自己決定と内発的動機づけ

---

時系列ラベルと構成概念

---

# Mads

時系列ラベル	構成概念
帰国後	制約
進路希望	自己決定・新しい目標
日本留学	日本滞在と自信
修士課程	試験の成績と自信

---

時系列ラベルと構成概念

---

# Rasmus

時系列ラベル	構成概念
大学入学	日本語学習の意識化
開始後1年	自己評価・明確な目標
日本留学	制約・有能感への欲求

---

時系列ラベルと構成概念

---

## 2. 言語学習史インタビュー —データ & 結果—

---

- モチベーション変容のグラフ
  - 時系列ラベルと構成概念
  - エピソード
-

## ➤ 構成概念: 人生の中の日本語学習の位置づけ

...ちょっと中途半端で、いや、最初の半年間は勉強した。ちゃんと勉強した。ま、クラスのトップだったというわけじゃないんだけど、いい学生だった。でもそのあとは、モチベーションは全然消えちゃった。(なんでだろう) さあ、なんか、もうどうでもいいって感じ。 これは何のために使えるのか分からなくて、そしてやっぱり、家族からプレッシャーがあった。

---

Andreas エピソード1: 大学入学

---

## ➤ 構成概念:生きる意味

退学した...本当に何がやりたいかわからなかった.

.....

そして、その時から、未来のことは考えないといけないと気付いて、大学で何が勉強したいかって調べて、いつつ、あの、たどり着いた結論は、「これも面白い、でも日本語も面白い。あ、これも面白い、でも日本語も面白い。」 いつも戻ったのは日本語.

---

Andreas エピソード2:挫折

---

## ➤ 構成概念: 自己決定と内発的動機づけ

で、日本語がやりたいって決めた。そして、目的も全然考えずに、ただ勉強したいって感じだった。これがわかるようになりたいから勉強する。そして、あとはあと。職業とかは後のことに、後になんとかする。今は日本語ができるようになりたい。誰よりもできるようにになりたい。

.....

モチベーションが人生で一番高かったと思う。

---

Andreas エピソード3: 再出発

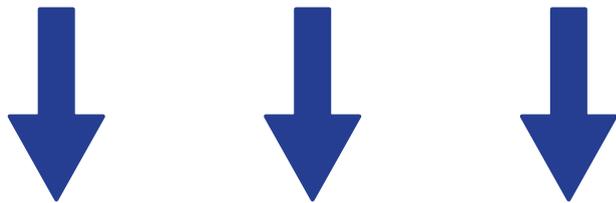
---

## 2. 言語学習史インタビュー —結論—

---

### 協力者Aに限っていうと...

- 教師の管理を離れた後も自律性を発揮できている
- 他者からの直接的支援を必要としていない
- モチベーションの変容等、自身の学習を意識化出来ている
- 統制的支援はモチベーションを下げる要因となり得る



教師の役割は...

学習者が自律性を発揮できる**場づくり**

---

### 3. 自律性支援のアプローチ

---

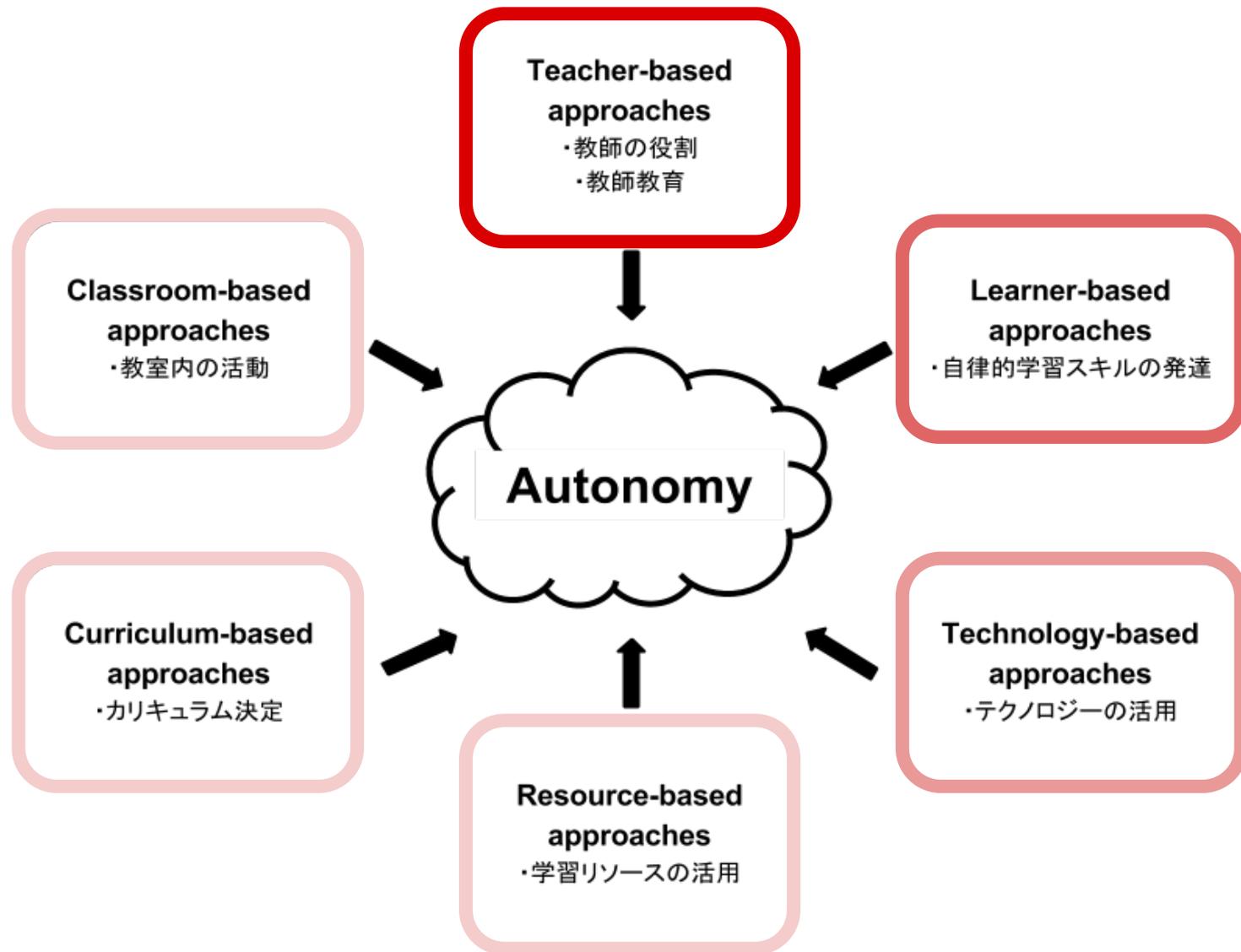
#### モチベーション変容のグラフの活用...

- ・ふり返りのツールとして
- ・ポートフォリオなど学習過程を記すものの一部として

学習者が自身の学習を他者と共有する機会を持つことの有用性（学習者 $\leftrightarrow$ 支援者）

→ 支援者側の意識改革が必要

---



---

Benson. P. (2011) '**Autonomy in language learning and related areas of practice**' *Teaching and Researching Autonomy. 2nd edn.* London: Longman. p.125

---

# 参考文献

---

- 青木直子(2006)「教師オートノミー」『日本語教師の成長と自己研修 —新たな教師研究ストラテジーの可能性を目指して—』凡人社、pp.138-157
- 青木直子、中田賀之編(2011)『学習者オートノミー 日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房
- 岩本尚希(2010)「外国語学習者の学習継続要因に関する一考察—言語学習ヒストリーから—」『桜美林言語教育論叢』第6号、桜美林大学言語教育研究所、pp.29-43
- 大谷尚(2008)「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCATの提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』第 54巻 第2号、pp.27-44.
- エドワード・L・デシ & リチャード・フラスト (Deci, E.L., & Flaste, R.) 桜井茂男訳(1999)『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—』新曜社 [Deci, E.L., & Flaste, R.(1995). *Why we do what we do—The dynamics of personal autonomy*. New York: Penguin Books.]
- 岡田涼(2012)「第4章 自己調整学習における他者」『自己調整学習—理論と実践の新たな展開へ—』北大路書房、pp.73-92
- 小嶋英夫、尾関直子、廣森友人(2010)『英語教育学大系 第6巻 成長する英語学習者—学習者要因と自律学習』大修館書店
- 齋藤ひろみ(1996)「日本語学習者と教師のビリーフス: 自律的学習に関わるビリーフスの調査を通して」『言語文化と日本語教育』第 12号、お茶の水女子大学日本言語文化学会、pp.58-69
- 西尾由利子(2010)「デンマーク—『世界一幸福な国』の教育—」『EUの言語教育政策—日本の外国語教育への示唆』くろしお出版、pp.107-117
- 羅曉勤(2005)「第9章 学習者のモチベーションを研究する」『文化と歴史の中の学習と学習者 日本語教育における社会文化的パースペクティブ』凡人社、pp.189-211
- Benson, P. (2011). *Teaching and Researching Autonomy. 2nd edn*. London: Longman.
- Deci, E.L. & Ryan, R.M. (2002). *Handbook of Self-Determination Research*. Rochester: The University of Rochester Press.
- Dörnyei, Z. and Ushioda, E. (2011). *Teaching and Researching Motivation. 2nd edn*. London: Longman.
- Holec, H. (1981) *Autonomy and foreign language learning*. Oxford: Pergamon Press.
- Little, D. (1995)[YS1]. Learning as dialogue: The dependence of learner autonomy on teacher autonomy. *System*, Vol.23. No.2. pp. 175-181.
- Murphey, T., Chen, J., & Chen, L.C. (2004). Learners' constructions of identities and imagined communities. *Learner's Stories*. Cambridge University Press. 83-100.
- Ushioda, E. (2001). Language learning at university: Exploring the role of motivational thinking. In Dörnyei, Z. & Schmidt, R.W. (Eds.), *Motivation and second language acquisition*. Honolulu: University of Hawaii Press, 93-125.
-